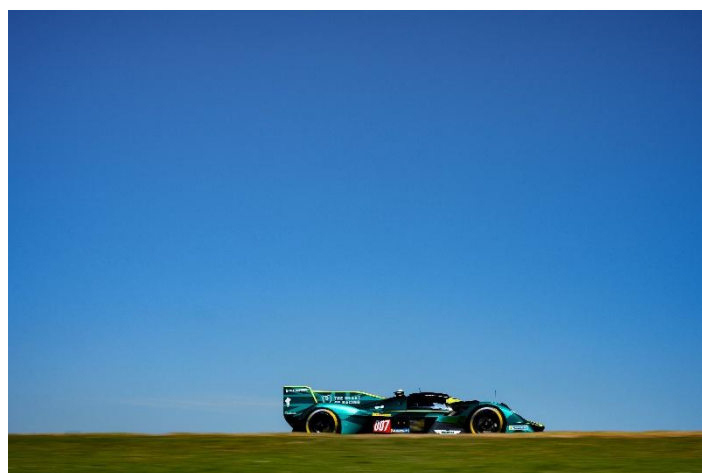




2026 年 FIA 世界耐久選手権で勢いに乗る Valkyrie、 オースティンに帰還

- アストンマーティン THOR チームとハイパーカーValkyrie、競争力をさらに高めて 2026 年世界耐久選手権後半を迎える
- 英国生まれのハイパーカーValkyrie、サンパウロ 6 時間レースで初めて 2 台そろってのポイント獲得を果たし、オースティンでは WEC 7 連続ポイント獲得を狙う
- Valkyrie、真の競技ポテンシャルを示す印象的なパフォーマンスから 12 か月、その舞台となったサーキット・オブ・ジ・アメリカズに再び降り立つ
- 007 号車アストンマーティン Valkyrie の英国人コンビ、ハリー・ティンクネルとトム・ギャンプルは 5 連続ポイント獲得を狙う
- 009 号車アストンマーティン Valkyrie のアレックス・リベラスとマルコ・ソーレンセン、ブラジルでのシーズン初ポイント獲得を土台にさらなる飛躍を目指す
- Valkyrie は、世界最高峰の 2 大スポーツカーシリーズである FIA 世界耐久選手権と IMSA の両方に参戦する唯一の公道仕様ベースのハイパーカー



2026 年 9 月 1 日、オースティン（米国テキサス州）：

アストンマーティン THOR チームは、まさに勢いに乗った状態で 2026 年 FIA 世界耐久選手権（WEC）後半戦を迎え、今週末、米国テキサス州オースティンのサーキット・オブ・ジ・アメリカズ（COTA）で開催されるローンスタール・マン 6 時間レースに帰還します。

アストンマーティンのワークスチーム THOR が担う英国生まれの驚異のハイパーカーValkyrie は、現在 2 年目となる 2026 年 WEC シーズンの折り返し地点を迎えます。前戦のブラジルでは初めて 2 台そろってのポイント獲得を果たし、競争力をさらに高める中で WEC 第 5 戦に臨みます。アストンマーティン THOR は昨年の富士 6 時間耐久レースから 6 連続、2026 年はすべての出場レースでポイント獲得を果たし、残り 4 戦というところで FIA ハイパーカー世界耐久マニュファクチャラーズ選手権の 5 位を巡りアルピーヌと激しい戦いを繰り広げています。

トム・ギャンプル（英国）とハリー・ティンクネル（英国）はイモラのシーズン開幕戦に始まり 4 連続でポイント獲得を果たす安定した成績で勢いに乗っています。ル・マン 24 時間レースで 2 度のクラス優勝経験を持つティンクネルと、ヨーロッパ・ル・マン・シリーズ元チャンピオンのギャンプルの英国人コンビは、5 月のスパ・フランコルシャン戦では 4 位に入り Valkyrie の WEC 最高成績を記録したほか、ル・マン 24 時間ではアストンマーティンのハイパーカーの最高位となる 8 位に入りました。

一方、WEC および IMSA GT クラスで数々の優勝経験を持つアレックス・リベラス（スペイン）と WEC GT クラスで 3 度のチャンピオンに輝くマルコ・ソーレンセン（デンマーク）は、2025 年にはドライバーズまたはマニュファクチャラーズで 3 度ポイントを獲得し、2026 年はサンパウロ 6 時間レースの 6 位で初のポイントを獲得しています。

この 2 組は、Valkyrie の強みを生かせる高速セクションを備え、2025 年にテキサスで初出場した際にもその強みを大いに発揮した COTA に向かいます。昨年のレースでは、Valkyrie がたびたび上位 5 台に入り、WEC における真のポテンシャルが初めて明確に示されました。以来、アストンマーティン THOR は 12 か月分のデータをさらに積み上げ、今回はそのポテンシャルを多くのポイント獲得へとつなげることを狙います。

世界究極の公道仕様のハイパーカーを純粋なレース仕立てにした競技仕様の Valkyrie は、アストンマーティンと The Heart of Racing (THOR) によって市販モデルをベースに開発され、レース用に最適化したカーボンファイバー製のシャシーに改良を施した 6.5 リッターV12 エンジンを搭載しています。標準仕様のエンジンは最高回転数 11,000rpm、最大出力は 1,000PS を超えますが、WEC のハイパーカー規定および IMSA の GTP レギュレーションに従い、出力は厳密に 500kW (680PS) に抑えられます。

ハリー・ティンクネル、アストンマーティン Valkyrie 007 号車ドライバー（WEC）：「おそらくこれが昨年のベスト・レースだったと思います。ウィークエンドを通してスピードが出ていましたし、雨の中でも 3 番手まで順位を上げることができました。良い思い出が残っています。もちろん、The Heart of Racing チームにとってはホームレースでもあるため、前向きな材料が多くあります。チームはサンパウロで 6 位に入ることができたばかりですが、サンパウロ

は相性の良いトラックではないことがわかっています。それに比べるとオースティンは **Valkyrie** にとってかなり相性のいいサーキットです。特に第 1 セクターは順調にスピードが出ます。ポイント獲得を続けたいですが、もちろん表彰台も狙いたいと思っています。それを実現できるチャンスも現実的にあると考えています」

トム・ギャンブル、アストンマーティン Valkyrie 007 号車ドライバー (WEC)：「COTA に戻れてとてもうれしいです。昨年は、**Valkyrie** のパフォーマンスを引き出すうえで、このレースが転換点となりました。あれからさらに 1 年の経験を積んだ今、今週末にどのようなペースを発揮できるか楽しみです。今年はずっとポイント獲得が続いているので、今後の目標は表彰台を狙い、実際にそこに立つことだと思います」

アレックス・リベラス、アストンマーティン Valkyrie 009 号車ドライバー (WEC)：「夏休みはとても長く感じたので、チーム全員がトラックに戻ることを楽しみにしています。COTA は私たちにとってホームレースで、これ以上は望めない舞台です。オースティンは非常に特別な場所ですが、私にとっても、以前住んでいたことがあり、素晴らしい思い出がある地です。**Valkyrie** はかなり高い競争力を発揮できると思います。好調なパフォーマンスを発揮し、これまでの成功を再現できることを楽しみにしています」

マルコ・ソーレンセン、アストンマーティン Valkyrie 009 号車ドライバー (WEC)：「再び米国に向かえることをとてもうれしく思います。009 号車に乗る日が待ち切れません。実り多い夏休みで、裏ではたくさんの作業が進められていました。チーム全体がトラックに戻る準備万端です。オースティンはいつでも特別なレースです。レースと戦いのリズムに戻り、好成績を目指して戦うことを楽しみにしています」

イアン・ジェームズ、アストンマーティン THOR チーム代表：「The Heart of Racing は米国のチームなので、COTA は私たちにとって非常に重要です。また、昨年 **Valkyrie** の競技ポテンシャルが最初に本格的に見えてきたサーキットでもあります。当然ながら、12 か月を経て、現在はマシンに対する理解もかなり進み、どうすればパフォーマンスを引き出せるかも把握し、それが今週末に向かう中での自信にもつながっています。前戦のブラジルでは、両方のマシンでポイント獲得ができたので、今回も、少なくとも同様の結果を残せると考えています。ただ、ポイント獲得の常連となった今、今後の目標となる表彰台獲得が実現できるとうれしく思います」

アダム・カーター、アストンマーティン耐久モータースポーツ責任者：「今シーズンの **Valkyrie** は、強みが生かせないサーキットもある中で、一定レベルのパフォーマンスを維持し、毎ラウンド着実にポイント獲得を果たしています。これは目標として常に掲げてきたことではありますが、ここで満足してしまうべきではありません。これらの成果は、パッケージ全体から最大限の力を引き出すためにチームが一丸となって密に協力し、ドライバーたちが

Valkyrie への理解を深めながら力強い走りを見せたことで達成できたことです。次は、Valkyrie が昨年競争力を発揮した COTA に向かいます。さらに 12 か月分のデータを蓄積した今、この 1 年でどこまで進歩したかを確認できるのを楽しみにしています」



アストンマーティン Vantage、WEC COTA 戦で再び栄光を狙う

- The Heart of Racing、現世代アストンマーティン Vantage が 2024 年に初の WEC LMGT3 クラス優勝を果たしたオースティンに舞い戻る
- COTA はアストンマーティン Vantage が多くの勝利を挙げてきたサーキット
- ドゥドゥ・バリチェロ、先日のバージニア・インターナショナル・レースウェイの IMSA GTD 出場を経て 23 号車 THOR Vantage GT3 に復帰
- 23 号車のバリチェロと組むのは、ル・マン 24 時間の表彰台経験者のジョニー・アダムとグレイ・ニューウェル
- ニューウェル、THOR Vantage の WEC ドライバーとして初のホームレースに臨む
- 27 号車 Vantage は COTA で優勝とポールポジション獲得の経験があるチーム代表のイアン・ジェームズ、マティア・ドルディ、ザック・ロビション

アストンマーティンで最も成功を収めているレーシングカー Vantage が、FIA 世界耐久選手権 (WEC) 第 5 戦でサーキット・オブ・ジ・アメリカズ (COTA) に戻ります。全長 3.426 マイル、6 時間にわたるローンスタール・マンの舞台であるこのサーキットで、Vantage はこれまで 13 度表彰台上に上り、そのうち 10 度でクラス優勝を果たしています。これには 4 度のダブルクラス優勝も含まれます。

優勝の一つはアストンマーティン・レーシングのパートナーチームである The Heart of Racing が達成したもので、同チームは今回、その栄光の再現を目指してホームレースに臨みます。

2024 年に挙げた優勝は、THOR とチーム代表のイアン・ジェームズにとって初めての WEC 優勝であり、ジェームズはこのとき世界選手権初のポールポジションを獲得しています。

27 号車 THOR Vantage のジェームズと組むのは、これまでと同様、ル・マン 24 時間のポールポジションを 2 度獲得しているマティア・ドルディ（イタリア）と元 IMSA GTD チャンピオンのザック・ロビション（カナダ）です。3 人は 2026 年のどのレースでも善戦しながら、まれに見る不運が続き、目立った成果としては、5 月のスパ・フランコルシャンでの 2 位にとどまっています。

今回も、THOR は超強力な 2 台のアストンマーティン Vantage GT3 で戦いに臨みます。23 号車 THOR Vantage をドライブするのは、サルト・サーキットで 3 位に入ったレギュラーメンバーのグレイ・ニューウェル（米国）、ドウドウ・バリチェロ（ブラジル）、ジョニー・アダム（英国）です。ニューウェルにとって、今回の COTA 戦は母国で世界選手権を戦う初めての機会であり、WEC の開催地の中でも、過去にレース経験を持つ数少ないサーキットの一つでもあります。一方、アダムが COTA に戻るのは 2020 年以来で、前回は GTE-Am クラスで優勝しています。

Vantage GT3 は、ウルトラ・ラグジュアリーなロードカーの Vantage と同じ基本設計を採用し、アストンマーティンの実績ある接合アルミニウム製シャシーをベースに、強力な 4.0 リッター V8 ツインターボエンジンを搭載しています。

視聴方法

ロンスター・ル・マンは 9 月 6 日（日）の現地時間 13:00（英国夏時間 19:00／BST）に開始されます。最終プラクティス、予選、本戦は FIAWEC+ で英語・フランス語の解説付きで生中継されるほか、各国の指定放送局でも生中継されます。

こちらのプレスリリースに関する素材は、下記よりダウンロード可能です。

<https://we.tl/t-8To3qtbmMJLxPx3H>

アストンマーティン・ラゴндаについて

アストンマーティンは、世界でもっとも熱望されるウルトラ・ラグジュアリー・ブリティッシュ・ブランドとなることを目指し、人々を魅了してやまないハイパフォーマンス・カーを作っています。

ライオネル・マーティンとロバート・バンフォードによって 1913 年に設立されたアストンマーティンは、スタイル、ラグジュアリー、パフォーマンス、エクスクルーシブネスを象徴するグローバル・ブランドとして知られています。アストンマーティンは、最先端のテクノロジー、卓越したクラフトマンシップ、美しいスタイルを融合させ、Vantage、DB12、Vanquish、DBX に加え、同社初のミッドエンジン・ハイブリッド・カーである Valhalla など、高い評価を得ている一連のラグジュアリー・モデルを生み出しています。また、Racing. Green. サステナビリティ戦略に沿って、アストンマーティンは「ブレンドドライブトレインアプローチ」による内燃エンジンの代替システムの開発にも取り組んでおり、電気自動車のスポーツカーと SUV のラインナップを持つというプランを描いています。

英国のゲイドンを拠点とするアストンマーティン・ラゴндаは、ラグジュアリー・カーを設計、製造、輸出し、世界で50以上の国で販売しています。スポーツカー・ラインナップはゲイドンで製造されており、ラグジュアリーSUVのDBXは、ウェールズのセント・アサンで製造されています。

ラゴндаは1899年に設立され、1947年にアストンマーティンとともに故デビッド・ブラウン卿に買収され、現在は「Aston Martin Lagonda Global Holdings plc」としてロンドン証券取引所に上場しています。

2020年には、ローレンス・ストロールが同社のエグゼクティブ・チェアマンに就任し、未来の重要な分野に対して新たな投資を行うと同時に、アストンマーティン・アラムコ・フォーミュラ1®チームとともにモータースポーツの頂点へと復帰し、英国を象徴するブランドとして新たな時代へと乗り出しています。



<https://media.astonmartin.com/>

株式会社ブレインズ・カンパニー

加藤 七瀬：070-7611-6970 中井 美里：070-2238-5865

astonmartin-pr@pjbc.co.jp